

豊田市観光基本計画に関する稲武地域会議意見書の意見への対応状況

(提出：平成18年4月21日、回答：平成19年1月23日)

| 地域会議の意見 | 計画への対応(案) |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・稲武地区は、小さな山村にもかかわらず、約1kmにもわたる町並みが形成されている。「どんぐりの湯」を拠点として、町並みを楽しんでもらう工夫が必要である。 | <p>交流拠点を生かした観光推進や観光交流に関する整備等について、観光交流振興の方針と検討事業及び重点プロジェクトに位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・気候が少し遅く、また、早く訪れる四季の木々を楽しんでもらう為の植林が必要である。(大井平公園等の集落設備の充実) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・稲武地区は、地区の中央を国道153号・257号の交差する交通等に恵まれた地区であり、通行するお客様を素通りさせないで、道の駅のある町の中央に寄って頂く工夫を商工会・観光協会の皆様で考え努力する。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・現在の観光スポットの整備と保全にも力を入れていきたい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地区全域で取り組む植栽美化運動、景観整備を実施する。例えば、空地に同一の木・花を植栽、ごみ問題全般の解決、山林の間伐の奨励、遊休田畑の活用等。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地元の子どもから老人まで、また、観光客が一休みできるような緑豊かな休息地となるような公園の設置が必要である。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「どんぐりの里」を中心に、「大井平公園」、「武節城址」を含め、名倉川両岸に遊歩道を設置し、水辺や紅葉に彩られるこの一帯を森林浴も体感できるアメニティゾーンと位置づけ、一層の整備拡充が急務である。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・稲武地域を花の里と位置づけ、軒先から道路脇、河川筋等を花木の植栽や花壇の設置などにより推進する。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・名倉川沿いの遊歩道付近は紅葉もきれいな「あまご釣り」の楽しめる場であるが、大水などにより通行できなくなることがあるので、整備の必要がある。また、冷水対策ができれば、「鮎釣り」も楽しめる魅力的になる。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・面ノ木風力発電所の塔内を一定時間の見学(説明)ができるようにする。 | <p>稲武地区の観光交流振興の検討事業の中で検討します。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・面ノ木原生林を散策が楽しめるように樹木に名札をつける。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・回遊ルートの中に、名倉川遊歩道を追加する必要がある。 | |

| 地域会議の意見 | 計画への対応(案) |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ どんぐり工房を中心としたこの地域を訪れる人々が体験し参加できるような受け入れ体制、組織作りの強化が必要である。 | <p>方針2の「地域に根ざしたほんものの体験プログラムの推進」として位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 「モッキー」、「ほうらいせん吟醸工房」、「郷土資料館ちゅーま」などを活用し、子どもたちに「昔のくらし講座」、「体験学習」の実施・充実が求められる。 | <p>方針2の「地域に根ざしたほんものの体験プログラムの推進」、方針5の「地域の連携による交流人口の拡大」の検討事業として位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田を利用した農業体験ゾーン(貸し農園を含む)の活用方策を模索すべきである。 | <p>方針4の「農地・山林・空き家を活用した山里での田舎暮らしへの誘い」の検討事業に位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民の他への依存型の体質を改善する。自分たちで汗を流しての「地域づくり」の意識を高める。いつまでもお役ではダメである。(何事も自主的参加を) | <p>計画では、地域が主体となって資源を生かし、交流を振興し、活力あふれるまちを実現する「観光まちづくり」を目指します。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊田市内において、最も田舎であることをアピールする。市内の人が小旅行気分で訪れる場所は稲武地区なのである。 | <p>稲武地区の観光交流振興の方針と検討事業及び重点プロジェクトに位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ この地域を訪れる人々が感動するような物事を、新しく作りだす必要がある。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ この地域の人々が、訪れる人々を温かく迎え入れる意識の向上を図らなければならない。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画書の中の「どんぐりの湯」や「四季折々の自然の魅力」の項の説明を補足しては。 | <p>計画の全体構成の中で検討します。</p> |

| 地域会議の意見 | 計画への対応(案) |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲武地区全体が、統一した意識でごみのない景観のよい町づくりを目指す。 | 景観整備や案内板の整備などを、方針1の「交流拠点を生かした観光推進」の検討事業に位置づけます。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 第一歩として、国道から見える空き地や野原に花木を植えて、通過道路として利用している人たちも生活道路と利用している人たちも、その景観を楽しんでもらえるようにする。それが、やがて足を止めて楽しんでもらえるようになり、人と人との交流につながっていくのではないか。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観を通して、地域住民の意思表示をしていく。それが大切である。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 町なかへの集客対策が不十分である。ボランティア・中高年層の活躍に期待。 | 町なか観光ガイドの育成を、方針1の「交流拠点を生かした観光推進」の検討事業に位置づけます。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動への積極的参加を図るために、ボランティア・リーダー研修の実施や希望受入れ窓口の開設が必要である。例えば、観光協会やシルバー人材センターが窓口の中心になればいいのでは。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲武地域も「どんぐりの湯」をはじめ多くの観光拠点が整備されてきている。特に、「しだれ桜」、「水芭蕉」、「オオキツネノカミソリ」などが新聞報道され多くの観光客が訪れてきたが、地元住民の中には、「水芭蕉」、「オオキツネノカミソリ」などを見たことがない者も多くいる。 | 計画全体の施策方針3「観光を支える人材・組織の育成」の中で、市民のおもてなし力の向上や観光まちづくり推進組織の設置、観光関連組織・団体の連携等を検討事業に位置づけます。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光の基本は、「おもてなしの心」であり、そういった心を持つ住民が増えることが地域おこしにつながり、住民の意識改革なくしては交流の拡大は図れない。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設や団体がそれぞれ活発な活動をしているが、それぞれの連携や情報交換が不足している。各施設や団体、更には商業者、住民を巻き込んだ連携が必要であり、観光協会にその中核になってもらいたい。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画書の中に、「溪流釣り」、「子持桂」、「大安寺(しだれ桜)」、「ハウスポニー」などを盛り込んで。 | |

| 地域会議の意見 | 計画への対応(案) |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく、始まった活動も、関係者以外は他人事という印象もあり、活動そのものが尻つぼみになってしまう心配がある。 | <p>計画全体の施策方針3「観光を支える人材・組織の育成」の中で、市民のおもてなし力の向上や観光まちづくり推進組織の設置、観光関連組織・団体の連携等を検討事業に位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・住民の共通認識の高揚の具体的内容として、自主的参加・連携や情報交換を加える必要がある。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「どんぐり工房」の場所がどこにあるのかわからない。目立つ看板等でPRが必要である。 | <p>景観整備や案内板の整備等を、方針1の「交流拠点を生かした観光推進」の検討事業に位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・稲武地域全体の観光施設等の案内看板が、国道153号の小田木や大野瀬など稲武地域の入口に必要である。稲武地域に入ってもどこになにがあるかわからない。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・観光では、国道153号の「伊勢神トンネル」が大きく支障を起こしているため、早期改修道路として整備促進をお願いし、大型観光バスが通行可能な道路になるように要望したい。 | <p>方針8の「観光交流を支えるインフラ整備」の検討事業に位置づけます。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・都市地域と農山村地域とを結ぶ公共の乗り物が、最重要課題である。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・観光人口を拡大するには、道路事情問題の緩和・解決が必要である。例えば、足助地区の渋滞、伊勢神トンネル、交通(バス)問題等。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「大井平公園」周辺の駐車場整備の充実が必要である。交通渋滞や交通事故の原因につながる。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「伊勢神トンネル等の改良整備」をより具体的に表現する必要がある。(国道153号伊勢神トンネル・橋梁及び小田木町地内の道路改良整備) | |